

1. 評価結果概要表

作成日 平成 19年 8月 27日

【評価実施概要】

事業所番号	0170202576		
法人名	有限会社ティージャーサポート		
事業所名	グループホーム とうぶはうす		
所在地	札幌市東区北43条東9丁目1番6号 (電話) 011-751-3200		
評価機関名	(有)ふるさとネットサービス		
所在地	札幌市中央区北1条西5丁目3 北1条ビル3階		
訪問調査日	平成19年8月27日	評価確定日	平成19年9月6日

【情報提供票より】 (19年8月3日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 17年 10月 15日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	17 人	常勤 15人, 非常勤 1人, 常勤換算	13人

(2) 建物概要

建物構造	木造	造り
	2階建ての	1~2階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	36,000 円	その他の経費(月額)	32,000 円	
敷金	有 (円)	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 (円)	有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	300 円	昼食	450 円
	夕食	500 円	おやつ	50 円
	または1日当たり		1,300 円	

(4) 利用者の概要 (8月3日現在)

利用者人数	18 名	男性	6 名	女性	12 名
要介護1	5 名	要介護2	7 名		
要介護3	4 名	要介護4	0 名		
要介護5	1 名	要支援2	1 名		
年齢	平均 84.4 歳	最低	60 歳	最高	98 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	みよか内科クリニック、恵佑会東病院、水谷外科医院
---------	--------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

地下鉄の駅から徒歩圏で利便性が高く、なおかつ閑静で公園や学校もある住宅地の中のグループホームである。施設は新しく、バリアフリーが行き届いており、共用空間は広くて明るく快適である。ホームの理念の中で地域密着を重視し、積極的に地域に係わる努力をしている。自己評価や外部評価の改善についても全員で取り組んでいる。介護計画は家族や職員の意見を取り入れ、きめ細かい計画を作成している。家族には個別記録のコピーを送り、どのように過ごしているか細かい報告がなされている。医療支援体制も整っている。入居者、スタッフともに明るく楽しく過ごされている。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>昨年度の評価をもとに改善項目に取り組み、成果をあげている。注意の必要なものを管理できる場所への保管とし、また緊急時対応への研修も行なわれている。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>自己評価に対して全員で話し合い取り組んでいる。今後もガイドブックを参考に理解をさらに深める方針としている。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>運営推進会議を定期的開催し、地域との交流、外部評価、行事などをテーマに活発に意見交換をしている。会議の議事録も作成されている。</p>
	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>ふれあい日記(個別記録のコピー)、金銭出納報告は毎月家族に送付し、2ヶ月に1回程度「ホームだより」を作成し送付している。また来訪時の報告、電話での報告を行なっている。家族の意見は、介護計画やホームの運営に活かしている。</p>
重点項目③	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>町内会に加入し、運営推進会議に町内会長にメンバーになってもらっている。メンバーの紹介で近くのセンターでの「シニアと子供の集い」に参加している。最近では七夕に約80人もの子供の訪問を受けた。町内会に「ホームだより」を回覧してもらっている。</p>

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「安心」・「尊厳」・「社会性」をキーワードに、運営理念と運営方針をつくり実践している。「社会性」についての具体的な方針も重要事項説明書に明記されている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	運営理念は、各スタッフの名札の裏面に記載し常に携帯しており、ミーティングで詳しく説明されている。当初の難しい言葉のものからわかりやすいものに変えている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会に加入し、運営推進会議に町内会長にメンバーになってもらっている。メンバーの紹介で近くのセンターでの「シニアと子供の集い」に参加している。最近では七夕に約80人もの子供の訪問を受けた。町内会に「ホームだより」を回覧してもらっている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	昨年度の評価をもとに改善項目に取り組み、成果をあげている。自己評価にも全員で話し合い取り組んでいる。今後もガイドブックを参考に理解をさらに深める方針としている。		

札幌市 グループホームとうぶはうす

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を定期的で開催し、地域との交流、外部評価、行事などをテーマに活発に意見交換している。会議の議事録も作成されている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市及び区の管理者会議に参加し、区の管理者の代表として行政の担当者と情報交換している。介護保険制度の内容について常時担当者に質問し解決している。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	ふれあい日記（個別記録のコピー）、金銭出納報告は毎月家族に送付し、2ヶ月に1回程度「ホームだより」を作成し送付している。来訪時の報告、電話での報告を行なっている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	来訪時や電話での報告のほか、運営推進会議に一部の家族に参加してもらい意見をいただいている。またホーム内に「意見箱」を設置している。重要事項説明書に第三者の苦情処理窓口を明記している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	スタッフの交代を極力少なくし、交代がある場合は、入居者がダメージを受けないような説明を行ない、スムーズに引き継ぎを行なっている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社内の勉強会、緊急時の救急救命訓練を行っている。スタッフの段階に応じた育成計画の作成や外部研修の参加機会はまだ十分とはいえない。	○	スタッフの段階に応じた育成の実施、外部研修の参加機会の増加、また外部研修参加後の情報の共有化の取り組みも期待する。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同じ法人のもう一つのグループホームとの交流はあるが、管理者以外はほかの同業者との交流はほとんどない。	○	スタッフがほかのグループホームを知ること重要と考えられ、スタッフレベルでのネットワークへの参加や相互交流、合同勉強会の開催などを期待する。
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	病院から入居するケースが多く、スタッフが入居前になじみの関係を築くのは難しいが、十分に面談を行なっているほか、本人がすぐにホームに慣れない場合は、家族と一緒に2～3日部屋に泊まってもらい、慣れてもらってから入居している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	スタッフは、入居者の一人ひとりのペースに合わせて活発に話し掛けている。過去の仕事に係わる話を聞いたり、携わっていた仕事を活かせる頼みごとをして、本人のプライドを尊重するようにしている。		

外部 評価	自己 評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時に本人や家族の話をもとにシートを作成し、後から得た情報も蓄積している。日常の本人の話を家族に伝え、理解が深まるように努力している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人や家族の意向を尊重し、スタッフ全員で意見交換を行ない、きめ細かい介護計画を作成している。家族には介護計画作成後、文書でさらに意見を書いてもらい、計画に反映させている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月ごとに介護計画を見直し作成している。ケアプラン会議を月に1～2回開催し、状況に応じて計画の見直しを行なっている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	家族が通院支援を行なえない場合は、通院支援を行なっている。ホーム入居時、退居時の引越し支援も行なっている。医療連携加算の指定を受け、24時間安心できる体制を整備している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	2週間に1度、協力医療機関の往診を受けている。そのほかの医療機関を希望する場合は、希望に応じて対応している。必要に応じて皮膚科や歯科医の往診を依頼している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	過去にまだ事例はないが、医療連携加算の指定の条件として、重度化した場合の対応方針に関して家族に説明し、同意書を取り入れている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	声掛け「さん」付けを基本とし、本人の希望があれば「ちゃん」付けで呼んでいる。個人情報適切に管理している。町内会向けの「お便り」には、写真の部分を絵に代えている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者は、自分のペースで過ごし、会話も活発で生活を楽しんでいる。入浴や散歩なども本人の希望に沿って支援している。		

札幌市 グループホームとうぶはうす

外部 評価	自己 評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の能力に応じて調理や片付けに参加している。スタッフが利用者と同じテーブルで楽しく談笑しながら食事をしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	浴室は清潔で広い。入浴したがない方もいるので、週2回の曜日を決めて、納得して入浴してもらっている。それ以外の日の入浴も自由である。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	歩行可能な方が多く、大根おろし、芋の皮むきなど調理の手伝いや掃除など家事を担ってもらっている。部屋に歌の歌詞を掲示し、皆で歌っている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	近隣に買物や散歩の場所が豊富にあり外出頻度は多い。ホームの庭でくつろぐこともできる。そのほかに行事を企画し遠出もしている。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は玄関の鍵をかけておらず、出入り口にセンサーを設置している。2階の居間から廊下への戸には鈴をつけている。		

札幌市 グループホームとうぶはうす

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	ホームとして消防署の指導のもと年2回の避難訓練を行っており、スタッフは全員救急救命訓練を受けている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の摂取量、水分の摂取量を把握し記録している。食事はバランスを考えた献立を作成している。カロリーの把握までは行っていない。	○	栄養バランスやカロリーをチェックするため、献立や食事を写真に撮ったものを定期的に専門家である栄養士に見てもらい、アドバイスを受けるのが望ましい。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間は明るく広く清潔でゆったりしている。においや音、光も調節されており気になることはない。バリアフリーも行き届いている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には各利用者の馴染みのものが持ち込まれ、安心して過ごせる場所になっている。湿度調整のため、各部屋に高さが調整できる物干しが設置されており、役立っている。		

※ は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。